

皆様こんばんは。ただいまご紹介いただきました、栃木県第 2550 地区宇都宮 90 ロータリークラブの飯村でございます。2013-2014 年度、当地区の吉田建二ガバナーと同期のガバナーでございまして、吉田さんには大変お世話になりました。今日は新クラブの創立の意義、あるいは友好クラブの意義、そしてそのお祝いについてちょっとお話をさせていただきます。

東京御苑 RC と三峡北大菁英 RC、このたびは調印も無事に終わり、本当におめでとうございます。先ほど鈴木 PDG が、日台ロータリー親善会議が金沢で行なわれたというお話がありましたけれども、その台湾の 7 つの地区で日本と姉妹提携をしているのは 260 クラブあるそうです。日本は姉妹と友好クラブを合わせて 443 クラブあるそうです。釣り合わないですね。それは台湾の RC は日本と複数の友好クラブ、あるいは姉妹関係を結んでいるようで、台湾のクラブは大変積極的に動かれているようです。

今日は東京御苑 RC が台湾の三峡北大菁英 RC とはふたつ目の友好クラブであると聞きし、台湾と同じように大変活発にやられているのだなと思っております。一年でこれだけ活躍されるのは全国をおいてもないのではないのかなと私は思います。ひとえに鈴木特別代表のご指導のもとに黒岩会長、豊田副会長のリーダーシップの賜物だと思います。ちなみに豊田副会長と私は、青年会議所時代からご一緒させていただいて、いろいろとご指導いただいています。それもあって今日はいかがかせていただきました。

さて、黒岩会長のお話では新クラブを一年前に創られたわけですが、私は栃木県のさつき RC を 2014 年度に創立いたしました。その時、チャーターナイトにも御苑ロータリークラブ準備会の皆さんが 6 名おいいただきました。栃木県はロータリー会員が大変減少している県でございます。過去 20 年間に毎年 30 名、40 名と。

それで私はサンディエゴの国際協議会でロン・バートン当時の RI 会長に会員増強を強調いたしました。会長より「特に新クラブを作りなさい。新クラブのあり方も今の若い人に受けるように、いろいろな人が入れるようなクラブを作りなさい」というようなメッセージをいただきました。

私は帰りましていろいろと仲間と勉強会を開きました。ベンチャー企業の経営者、RAC の卒業生、主婦の方。年会費も本来なら 20 万も 30 万もかかりますが、年会費を 10 万円、40 歳からという年齢層で決めました。シニア世代では会員増強が難しいのです。

もう 2 年経ちましたが正しいロータリーの目的を持って素晴らしいものができるのではないかと考えております。

そして昨年この御苑 RC のチャーターナイトにお邪魔しましてびっくり致しま

した。会長の挨拶ではまず 40 名で創立。それから僅か 1 年で 97 名と。80 名なら 20 名のクラブが 4 つできるのです。そして国際奉仕から友好クラブ、地域奉仕の R C C、国際会長賞ゴールドメダル受賞と、それを 1 年でやり遂げた。大変なクラブができたのだなと思います。ロータリークラブ内外の温かい見守りの中で一丸となって頑張っている。皆さん全員がパイオニアです。

是非とも「ロータリーの本当のあり方はこうだ」ということを全国、全世界に大いに発信していただきたいと思います。これこそロータリーの大きな変革になるのではないかと思います。是非ともロータリーの原点、ロータリーの目的とは何かということをも更に取り入れ、どんどん実践していただきたいと思います。「ロータリーの目的、それは奉仕の理念に結ばれた職業人です」。世界のネットワークを用いて、国際ロータリーの推進することを実践して、頑張りたいと思います。

ロータリーとは皆さんの資質を引き出すところです。どんどんディスカッションをして皆さんの能力を引き出してもらいたいと思います。私達の人生でどれほど得るか、どれほど与えるか。これによって私達の人生の価値がわかります。私も東京御苑 R C さんに負けないようにこれからも頑張っていきたいと思います。本日はありがとうございました。

<閉会点鐘・黒岩会長>

三峽北大菁英 R C の皆様をお迎えし、講演は、第 2550 地区パストガバナー飯村慎一様をお願いしまして催しました、第 57 回目の「記念例会」を終了させていただきます。